

(別紙4) 平成 25 年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3191400104		
法人名	社会福祉法人赤碕福祉会		
事業所名	グループホームはなみ(南通り)(北通り)		
所在地	鳥取県東伯郡琴浦町赤碕1087-7		
自己評価作成日	平成25年11月21日	評価結果市町村受理日	平成26年3月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人鳥取県社会福祉協議会		
所在地	鳥取県鳥取市伏野1729番地5		
訪問調査日	平成25年12月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

出掛ける楽しみや、住み慣れた地域で馴染みの方や地域の方と触れ合う機会を多くし、張り合いや意欲向上につながるよう支援している。また、外食や出前等希望を取り入れたり、毎月1回家族参加の行事を実施し、楽しみのある生活を提供している。本人、家族、専門医、専門職と連携を深めた支援に取り組んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者やご家族、また職員からの意見を大切に、それぞれの意見に耳を傾け、事業所の運営に反映しておられます。利用者が司会をし、皆で思いを話し合う「はなみ会」では、食事のことや日々の過ごし方などについて、毎月話し合われており、利用者の方に安全で楽しみのある生活をしていただけるよう取り組んでおられます。また、ご家族の協力、理解を得ながら、馴染みの喫茶店に出かけたり、初詣に出かけるなど、外出支援に取り組んでおられます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	H22年開所時に皆で事業所理念・基本方針を作成したものを事務所内に掲示している。年間事業計画に盛り込み取り組んでいる。	事業所理念や前年度の外部評価の結果を踏まえ年間事業計画を作成しておられます。事業計画は部署会において職員間で話し合われています。新人職員に対しては、研修計画に盛り込んで研修しておられます。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の催し(花祭り、鳴り石の浜イベント、中学校運動会、小学校生活発表会、敬老会、秋祭り、とんどさん、初寄合)に参加。地元の店に出かけたり馴染みの鮮魚店が玄関先まで来られ好みの魚を購入している。地域の方が野菜や、花を持ってきてくださる。地域の方を招いて「そうめん流し」を実施した。地域の小学生のボランティア活動で交流、地域の方が畑の手入れをしてくれたり、話し相手に来られる。	花祭りや地元の小中学校の行事、敬老会、とんどさんなどの地域の催しに参加されています。また、馴染みの鮮魚店が行商に来られ、利用者の好みの魚を購入されています。赤碕小学校とは定期的に訪問して雑巾を寄付したり、小学生の訪問があったり、相互の交流をしておられます。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	なし		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	3か月に1度開催。利用者の健康面、専門職との連携、行事や外出支援の取り組み状況、防災訓練状況、出来事報告・ヒヤリハット状況、実地指導結果等についてメンバーに意見、アイデアを頂きサービスに反映している。地域の消防職員にも参加して頂き、アドバイスを頂いている。11月防災訓練時、会議の意見を取り入れて実施した。	地域住民、入居者代表、入居者家族代表、町福祉課、消防署の方をメンバーとして委嘱し、3か月に1回開催しておられます。防災や救急などについて、10月からは「地域との防災」をテーマに協議されています。	省令第85条によると、おおむね二月に一回以上、運営協議会に対しサービスの提供回数等の活動状況を報告し評価を受けるとともに、必要な要望や助言を聴く機会を設けなければならない。とされています。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に参加して頂き、町内の情報提供、感染症、熱中症対策に必要な資料等提供をうけている。介護保険法第23条に関わる実地指導の受審、指導を受けている。地域ケア会議や琴浦町GH協議会に参加している。行事の際は参加して頂けるよう毎回連絡している。	運営推進会議や事業所の行事に役場から出席し、事業所の実情を伝えておられます。また、事業所からも町主催の琴浦町グループホーム協議会に参加されており、日頃から何かあれば相談できる体制を築いておられます。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止検討委員会に月に1回参加。自分たちのケアを振り返り、気づきを報告。また、他事業所の事例も参考にし、身体拘束をしないケアを実践している。部署内研修で4月に勉強会を実施。	法人内の身体拘束廃止検討委員会において、各事業所の日頃の気づき(事例)を持ち寄り、検討されており、その内容は職員へ報告されています。部署内においても「高齢者虐待防止教育システム」を使用し勉強会を実施されています。玄関や非常口にセンサーが設置されています。また、居室内に床センサーを設置している利用者の方もおられます。	センサーの必要性について職員間で話し合われ、適切な取組みについて検討されることを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年間研修に組み入れ、部署内研修で5月に勉強会を実施。ストレスが生じやすい介護現場のつらい気持ち、怒り、負担感、不満等の感情を共有するよう努めて、1人で抱え込まないように申し合わせている。スタッフ同士の食事会、旅行の福利厚生費が支給されている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	部署内研修を行っている。面会者や家族にも活用して頂けるようにパンフレットを玄関に置いている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	個別に十分な話し合いの時間を設け、利用料金や起こりうるリスク等の不安や疑問を伺い、理解、納得して頂きながら契約を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者が司会をし、皆で思いを話し合う場を月1度「はなみ会」と称して開催し、意見要望を伺っている。出された意見は行事や外出支援、日々の献立等で具現化するよう努めている。家族については面会時や、電話連絡の折りに意見要望をお伺いし運営に反映させている。	利用者が司会をし、皆で思いを話し合う「はなみ会」では、食事のことや日々の過ごし方などについて、毎月話し合われており、利用者の方に安全で楽しみのある生活をしていただくよう取り組んでおられます。利用者家族に対しては、面会時に伺うようにしておられます。また家族が参加できる行事を月1回設けておられます。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の部署会、ユニット会等で業務の改善課題等気づきや意見を発する機会を設けている。年2回の個別面談もあり、意見要望を聞く機会を設けている。	部署会やユニット会議で職員から意見が出されています。また、管理者は職員から意見や提案、要望を聞くよう日頃から心がけ、運営に反映しておられます。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員育成の取り組みとして苑内外の研修に積極的に参加させている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月1回の苑内研修、外部研修への参加、職員間での伝達研修を行い、職員の育成に努めている。またOJT制度も取り入れて育成に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所の夏祭り、秋祭りに参加し、交流を図った。琴浦町グループホーム連絡協議会で他施設の活動内容を勉強させてもらった。運営推進会議についての勉強会でのアドバイスを実際に取り入れている。		
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談で本人に会い生活状態を把握するよう努めている。また、本人の思いに向き合いながら、職員が本人に受け入れられるような関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	今までのサービス利用状況等これまでの経緯や、困っていること、不安に思っていることについてじっくり聞くようにしている。家族が求めていることを伺いながら、事業所としてどのような対応ができるかを事前に話し合っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、家族の思いや本人の実情を確認しニーズを探り、改善に向けた支援を行うように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る事を模索しながら、生活の中で活かされる場面作りや役割作りを増やしている。その関わりの中で職員の知らない、昔ながらの知恵を教わりながら関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日々の暮らしの出来事や気づきを伝える事で共に支え合う関係作りに努めている。月に1度生活状況を写真を添えてお便りしている。月1回家族参加の行事を行っている。家族と墓参りに行くようプランにあげている方もいる。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地元のスーパーや馴染みの鮮魚店へ買い物に出かけ、馴染みの方との継続的な支援に努めている。馴染みの喫茶店に行ったり、ラーメン店から出前を頼んだりして楽しんでいる。お寺、神社、墓参りへも出掛けている。	昔なじみの友人を行事に招待し、交流している利用者もおられます。また、馴染みの喫茶店に出かけたり、初詣には、利用者が昔からお参りしている神社に出かけたり、馴染みの関係が途切れないような支援に努めておられます。	利用者の馴染みの関係について、具体的でわかりやすく記載の仕方を工夫することで、馴染みの関係が広がるよう取り組まれることを期待します。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性について新たにアセスメントシートを活用し職員間で情報共有し把握に努めている。その時々々の心身の状態や感情で変化する事がある為職員が間を取り持ち調整役として支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された方の家族の訪問があった際には、ホールにて利用者と一緒にゆっくりとお茶を飲みながら話している。		
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントや日々の関わりの中で意向を伺ったり、困難な方はつぶやきや表情、雰囲気、会話から思いを推し量り職員間で共有している。思いやつぶやきを引き出せるようにゆったりと丁寧に関わるように努めている。	アセスメントや日々の関わりの中で、利用者一人一人の思いや意向の把握に努めておられ、把握が困難な場合は、利用者の表情やつぶやきに注意し、思いを引き出せるよう聞き方を工夫しておられます。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族から情報を聞き取り把握に努めている。また、馴染みの方と出会った時や面会者から情報を伺うことで家族の知りえない利用者の様子を知り得る機会となっている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の生活リズムを把握し、共に過ごしながら表情や言動から思いを汲み取り出来る事に注目し現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人家族の思いや意見を取り入れ反映させるようにしている。専門職とも連携しアドバイスを反映している。月に1度モニタリング、カンファレンスを行い、現状に即した介護計画となるよう取り組んでいる。	利用者やその家族から思いや意見を聞き取り介護計画が作成されています。介護計画は3ヶ月に1回見直されており、状況の変化に応じて更新されています。毎月、モニタリングやカンファレンスが行われています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のサービス計画チェック表で日々の生活状況ケアの実践結果を記入している。個別記録を計画見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	面会時食事を一緒にされたりとその時々のご希望に副った柔軟な対応をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	図書館に出掛けて読みたい本を自ら選んだり、小中学校から招待されて出掛けたり、こちらから小学校に向き手縫いの雑巾を寄付している。お返しにタオルを寄付してもらった。近くのNPO法人東伯けんこうから新鮮な地産の野菜を買ったりして豊かな生活を提供している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望するかかりつけ医になっている。必要に応じて専門医の受診を行っている。	かかりつけ医への受診継続については入所前に意向を確認されています。通院は家族対応が中心で、希望するかかりつけ医に受診されています。受診時には利用者の様子を書面にし、家族に渡しておられます。職員で対応した場合は、受診結果を家族に電話等で伝え情報を共有しておられます。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期受診、往診時に日々の生活状況が記録してあるチェック表を確認して頂きながら関わりの中で捉えた情報や気づきを報告し、相談している。また、いつもと様子が違うとき等電話で報告相談し、指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、本人への支援方法に関する情報を医療機関に提供したり、安心して治療できるように職員が見舞うようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時にターミナルケアについて家族に話をし、希望に添い2名の方のターミナルを行った。医師、家族と連携を図り、家族の気持ちや本人の思いに注意を払いながら対応した。重度化している方にもPT・STと連携しケアに反映している。また、死生観についてホーム内で学習した。	今年度「看取り・介護マニュアル」を作成されました。マニュアルの内容を契約時と利用者の状態の変化に応じて家族に説明しておられます。本人、家族の希望を大切に、医師、家族と連携しながら対応しておられます。部署内で看取りについての勉強会を実施しておられます。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年間研修計画に盛り込み、部署内研修で救急時等の研修を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の消防署の協力を得て日中、夜間を想定し避難訓練を実施。夜勤に入る際には、懐中電灯とヘルメットを自分のサイズに合わせて準備し傍に置いている。普段から災害を想定し、利用者と共に最終避難場所に出る等外出を兼ねた練習を実施した。運営推進委員会で出た意見を基に災害時一見してわかるよう各居室に色分けを行った。	消防計画や夜間火災マニュアルは作成されており、年6回、日中、夜間を想定した避難訓練を実施されています。訓練には、区長、運営推進会議メンバーなど地域の方も参加されており、訓練後は、振り返りを行っておられます。地域と防災協定を締結されるなど協力関係を築いておられます。地震、水害に関するマニュアルは作成されていません。	未整備のマニュアルを整備されることを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	苑内研修で全職員が学ぶ機会を設けている。身体拘束廃止検討委員会でも力を入れて取り組んでいる。	毎月1回、ユニット会議にて日々のケアについて振り返りの機会を設け、職員間で話し合っておられます。採用時の研修と全職員対象の法人内の研修に全員が参加し、尊厳とプライバシーの確保について取り組んでおられます。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個々に声をかけるようにしている。自己決定が難しい方には、表情や言動から汲み取りながら選択して頂いている。引き継ぎノートを利用し、表情、言動を記録し共有している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のペースに合わせ、その時々希望を聞き入れてケアしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の馴染みの理美容店で希望にあわせたカットをしている方、馴染みの化粧水や乳液を使用している方、ハッピー号利用し、毛染めやパーマ、化粧をして、おしゃれを楽しんでいる方もある。面会時マニキュアを塗ってもらう方もある。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜を包丁で切ったり、盛り付けたり個々の出来る力を発揮してもらい、職員も一緒に食事している。片付けも自主的にしている。お米を研いだ後手加減で水の量を合わせる方、魚をさばける時もある。出来る場面をつくるように取り組んでいる。	調理や配膳、片づけは利用者個々の意欲や力を活かしながら、職員と一緒にしておられます。献立は、その日の家族やご近所からの差し入れや行商の魚屋さんの品揃えにより決めておられます。職員も一緒に食卓を囲み、旬の食材や調理について話をしながら、和やかに食事をしておられます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量が少ない方には、個別記録表を活用し、かかりつけ医と連携をとりながら対応している。好みの食べ物や飲み物等を提供したり工夫している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを実施している。週2回入れ歯洗浄剤で消毒している。個々に合った物を使用し、口腔内を清潔に保つように取り組んでいる。口腔ケアの研修を伝達しケアに取り入れている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、排泄パターンを把握しながら案内を行いトイレで排泄できるよう支援している。オシメ使用の方でもポータブルトイレに案内する事で排便できるよう取り組んでいる。	排泄チェック表により排泄パターンを把握し、トイレで排泄ができるよう羞恥心に配慮しながら、声掛けをしておられます。また、本人の状態に合わせて、リハビリパンツ、布パンツ、パットを使い分けるなど、自立に向けて支援しておられます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	7分で精米したお米に麦を混ぜている。ヨーグルトを1日1回食後に出し、毎食1品以上にきのこを取り入れる。わかめ等海藻類も取り入れるようにしている。献立を立てる時のポイントを取り決めてあり、目安としている。オリゴ糖を使用したり、水分量が増えるようゼリーを作り提供している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者にその日の希望を聞きながら入浴していただいている。同姓介護を希望する方、異性の介護を希望する方とそれぞれあり、なるべく希望を聞き入れながら個々に合った支援をしている。希望に応じて足浴、手浴を行っている。	利用者の希望に沿って、入浴しておられます。入浴を嫌がる方には、清潔が保てるように説明し、個別に声をかけたり、足浴や手浴をしたり、個別に対応しておられます。また、ゆず湯や菖蒲湯など季節を感じていただけるよう工夫しておられます。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の状況に応じて安心して寝られるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋を個々のケース記録に綴り、効能、副作用について理解できるようにしている。処方薬についても引継ぎノートに記入し服用時からの経過を引き継ぎ、異常がないか連携して観察している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	おしぼり準備、食事作り、食器洗い、食器拭き、洗濯たたみ、洗濯干し、モップ掃除等の日課やちぎり絵、生け花、パズル、塗り絵など楽しみながら取り組んでいる。らっきょう、梅干し、干し柿、干し大根、金山時味噌作り等教わりながら作った。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望に副い散歩、買い物、ドライブに出かけるよう支援している。弟と馴染みの喫茶店に行ったり、夫の月命日にお寺へお参りする支援を長男に協力してもらっている方、家族が受診対応出来る家族には出来るだけ協力して頂いている。	近くに生け花の材料を買いに出かけたり、馴染みの喫茶店に出かけるなど本人の希望に沿った外出を支援しておられます。また、外出支援は家族との交流の機会と捉え、本人の希望を家族へ伝え、家族の協力が得られるよう取り組んでおられます。歩行が困難で家族対応が難しい場合は、事業所の車で家族も一緒に外出しておられます。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	預かり金の管理は職員が行っているが、レジで支払う際に渡して、支払って頂く。週に1度、ヤクルトやパン屋、東伯けんこうが玄関先まで来てくれ好みの物を購入して食べたり、生け花をしたりと楽しんでいる。好みの日本酒を選びに近くの店へ買い物に行く方もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が電話を掛けたい時、プライバシーに配慮し子機を使用し自室でゆっくり話が出来よう配慮している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	天気の良いときはベランダに椅子を用意してお茶タイムを楽しんだり、玄関先にベンチを置き日向ぼっこが出来るようにしたり、廊下やホールの窓際にソファを置いて思い思いに過ごせる空間作りをしている。本人用のひざ掛けやクッションを使用し過ごしやすくしている。	利用者の方が一日を過ごされる居間は、中庭に面しており、日当たりがよくゆったりと過ごすことのできるスペースとなっています。利用者が作成されたちぎり絵・塗り絵・編み物など季節を感じさせる作品を飾っておられます。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下にソファを設置し、一人で過ごしたり、仲の良い方同士ゆっくりくつろげるスペースを作っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の写真や使い慣れた品々を思い思いに飾っている。家族も新しい写真を持ってきてくださる等本人の思いを汲んで協力されている。自分で生けた生け花を飾っている方や、自分の好みの歌やCDを流して聞いている方もある。	居室で居心地よく過ごしていただくため、使い慣れたもの(タンスや鏡台など)を持ち込むことができることをご家族に伝えておられます。写真や俳句が書かれた短冊を季節ごとに取り替えて飾られたり、趣味の生花を展示されるなどご家族の協力、理解を得ながら取り組んでおられます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	理学療法士に相談しながら個々に合った福祉用具、自室環境整備、リハビリメニュー等アドバイスを受けている。		

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	6	非常口に設置してあるセンサーの必要性について検討することが必要。	非常口センサーを、必要な時だけ取り入れるという意識を持ち身体拘束をしないケアに取り組む。	利用者個々の状態を把握し職員間で共通認識のもと、必要のない時にはセンサーOFFにする。毎月の部署会、ユニット会に検討する。	6ヶ月
2	20	利用者の馴染みの関係について具体的でわかりやすい記録の仕方が必要。	利用者の馴染みの関係を具体的でわかりやすく記載することで馴染みの関係が広がるよう取り組む。	センター方式のB-3暮らしの情報(私の暮らし方シート)、A-4基本情報(私の支援マップシート)を活用する。外出し知人に出会った際は名前を伺いメモする。外出対応者が、10分間その利用者とは話をして記録に残す。	6ヶ月
3	35	地震・水害に関するマニュアルが未作成。	地震・水害等のマニュアルを作成する。	災害についてハード面に甘んじず防災頭巾を作成する。職員の初期対応のマニュアルを作成する。	2ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。